

田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会広報誌・平成 27 年 2 月号

猿ヶ石川通信

Vol.11

- 第 1 面 トピックス 猿ヶ石川再生セミナー開催
- 第 2 面 ニュースファイル ワカサギ釣り調査、野鳥観察会、ビジョン推進協議会総会
- 第 3 面 インタビュー ハスプロジェクト推進協議会事務局：関岡裕明さん、野鳥コーナー
- 第 4 面 インフォメーション 田瀬湖一斉清掃、猿ヶ石川調査員募集、田んぼのがっこう、他

猿ヶ石川流域トピックス



セミナーで講演する関岡裕明さん。

猿ヶ石川再生プロジェクト

猿ヶ石川再生セミナー開催

ハスプロジェクト推進協議会の関岡裕明氏が 福井県三方五湖の自然再生活動について講演

福井県敦賀市から
講師を招く

2月21日(土)、遠野市内のあえりあ遠野中ホールにて、「猿ヶ石川再生セミナー」が開催されました。

セミナーの講師は、福井県の三方五湖を中心とした自然環境の再生活動を実践しているハスプロジェクト推進協議会事務局の関岡裕明氏(詳細3面)。演題は「みんなで楽しみながら取り組む自然再

生活動く福井県三方五湖・ハスプロジェクト推進協議会の事例から」。関岡さんは多忙な中、福井県から来ていただきました。

ハスプロジェクト推進協議会の
ビジョンが実現へ向う

セミナーでは、これまでの猿ヶ石川再生プロジェクトの経過を、活動の写真映像とともに事務局が報告。その後、関岡さんの講演となりました。

講演では、「三方五湖の概要として、国定公園やラムサール条約湿地登録となっているなど豊かな自然環境がある一方、護岸の単純化や、水のつながりの分断化、外来魚が侵入するなどの問題点もあるという現状が紹介されました。このような問題を背景に、平成17年5月に「ハス



講演後の意見交換会の様子。

プロジェクト推進協議会」が発足。地元への提案という形でビジョンを描いたり、地元の小学生がお爺さんお婆さん達に聞き取りしながら描く、「昔の水辺の風景画」の活動も紹介されました。

これらの活動や、研究者、行政の働きかけにより、平成23年には、自然再生推進法に基づき「三方五湖自然再生協議会」が地元約60の関係団体と個人により設立されました。この協議会において、「三方

五湖自然再生全体構想」が作成され、「ハスプロジェクト推進協議会」が提案したビジョンが、実現に向けた取り組みとして発展して来ているそうです。

猿ヶ石川の魚を
食べた思い出

講演終了後は、岩手県立大学准教授の辻盛生先生をコーディネーターに、意見交換が行われました。会場からは、関岡さんへの質問の他、猿ヶ石川の魚を食べた思い出を語る女性の方もありました。

最後に関岡さんは、「この地域は多くの資源を持っているので、活動を全国に発信してください。」とエールを送ってくださいました。



川魚を食べた思い出を語る参加者。

猿ヶ石川流域ニュースファイル

田瀬湖水上ワカサギ釣り大会の調査

平成 26 年度の田瀬ダム完成 60 周年記念冬期イベントとして「氷上ワカサギ釣り大会」が計画されました。しかし、田瀬湖に氷がしっかりと張らなければ開催はできません。

そこで、開催の可否を判断するため、2月17日（火）、猿ヶ石川漁協組合員の方々に協力いただき、田瀬湖での氷の状況等について調査が行われました。

場所は、氷上ワカサギ釣り大会の候補地とされていた田瀬湖釣り公園。参加



田瀬湖釣り公園の前に広がる田瀬湖で行った氷の調査。



氷に穴を開ける猿ヶ石川漁協の組合員。

者は、猿ヶ石川漁協組合長の藤田晃さん他組合員 5 名、田瀬湖釣り公園スタッフなど田瀬地区住民の合計 9 名が参加。

釣り公園から田瀬湖畔へ移動し、漁協組合員が持参した、氷に穴を空けるワカサギ釣り専用のドリルで穴を開けました。穴に定規を当てて計測すると、氷の厚さは約 10 cm しかありませんでした。

漁協組合長の話では、最低でも 15 cm の厚みがなければ、氷が割れる危険性が高いため、氷上ワカサギ釣りを解禁できないとのこととです。この時期に解禁できなければ、今シーズンは不可能ということ、正式に氷上ワカサギ釣り大会については、中止せざるを得ない結果となりました。

かつては、田瀬湖の冬の風物詩となっていた氷上ワカサギ釣りも、温暖化には勝てないようです。この調査にて、田瀬ダム完成 60 周年記念事業が終了することになりました。

カンジキで歩く野鳥観察会

2月15日（日）、とうわ野鳥の会が主催する定例の自然観察会が開催されました。

この日の天気は、前日までの荒天とは別世界の青空。午前 8 時 30 分に東和コミュニティセンター駐車場に集合した参加者は 15 名。日程等を確認後、車に分乗し移動しました。

この日の観察地は、東和町の矢崎橋～落合橋までの猿ヶ石川沿い。雪上を歩



カンジキを初めて履く参加者。



晴天に恵まれ、多くの野鳥が観察できました。

くということ、参加者には、野鳥の会スタッフが用意したカンジキが配られました。

この日観察できた野鳥は 20 種ほど。猿ヶ石川の中には、マガモやカルガモの他に、オオバンやカイツブリが潜水する様子も観察できました。また、川原の林では、ウソやベニマシコなどが美しい姿を見せてくれ、フィールドスコープ（単眼望遠鏡）を覗く参加者も満足そうでした。

水源地域ビジョン推進協議会総会

2月13日（金）田瀬振興センターにて、平成 26 年度田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会の総会が開催されました。

総会の冒頭では、同ビジョン推進協議会会長の小田島峰雄氏が、田瀬ダム完成 60 周年記念事業を、ぜひ来年度以降の地域活性化に結びつけて欲しいと挨拶。

協議では、26 年度に行われた田瀬ダム完成 60 周年記念事業等について、スライド映像を交えて報告。その後、27 年度の計画として、猿ヶ石川再生プロジェクトや田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会、田瀬湖ウォーキング大会などの継続事業の他、60 周年プロジェクトを引き継ぐ形で、砥森山周辺活性化プロジェクトが提案され、原案通り承認されました。



総会では、60 周年事業等が映像で報告されました。

猿ヶ石川流域インタビュー



ハスプロジェクト 推進協議会事務局

関岡 裕明(せきおか ひろあき)さん

1969年1月広島生まれ。信州大学大学院農学研究科卒。卒業後は、環境コンサルタントとして、里地里山をフィールドにした自然環境調査・自然再生活動のコーディネーター、企業の環境CSR活動の支援、鳥獣害対策支援などの業務に従事。技術士(環境部門)。この他、環境省委嘱の希少野生動植物種保存推進員。著作(共著)に、「自然再生」(ソフトサイエンス社)、「生物多様性緑化ハンドブック」(地人書館)などがある。

田んぼの生きものを
どうやって守るか

私が三方五湖と関わるようになったのは、湖近くの田んぼの活動を始めたことからです。

私は大学で植物生態学が専攻で、高山植物を調べ歩いたりしてました。白馬岳では、6年間大学の研究で高山植物の調査と再生活動を行ってきました。

三方五湖の近くの耕作放棄された田んぼに、貴重な植物があることが分かり、それをどうやって保全するかという取組でした。ミズアオイやミズオオバコ、サンショウモという植物ですが、かつては田んぼの雑草でしかなかった植物です。これらの植物については、駆除方法は研究されてきたんですが、どうしても増やせるかは研究されてきていないんです。

この田んぼの貴重な生きものを、どうやったら保全できるかをみんなで考えているうちに、「ハスプロ(ハスプロジェクト推進協議会)」を作ることにな

り、私が事務局を務めることになりました。

お爺さんが
孫達に伝承する

「ハスプロ」が直接事業を行っているのは田んぼの活動で、他は普及啓発やネットワーキングづくりを担当しています。

地元の小学生を対象にした「昔の水辺の風景絵画募集」も、その一つです。これは、お爺さんお婆さん達に、子供の頃の水辺の様子を子ども達が聞き取り、絵を描くというものです。これまでに千点近くの絵が集まっています。

絵を描くには一日がかりなんですけど、お爺さん達が生き生きとして孫達に語るなど、貴重な伝承活動になっていきます。田んぼの中で底の抜けたバケツを使って魚捕りをする絵があったり、お爺さんが「ここには杭があった」と言っても子供は杭の意味がわからなくて、説明したりしています。

また、この絵を活用して、昔食べた魚を料理する

ワークショップを開いたり、活動の輪が広がっています。

起こっていることを
科学的にとらえる

今回は、猿ヶ石川再生をテーマとするセミナーにお招きいただきましたが、自然再生の中で大事なことは、「起こっていることを科学的にとらえる」とい

うことです。「こうじゃないか」という思い込みをしている場合が多い。現象を捉えて、原因を調べる。

また、活動を進めるには、地域のみなさんが、お互いの立場を尊重しなくてはならないです。それには、人と環境の溝をどう埋めるか、人と人の対話をどう進めるかというコーディネーターの役割が大事なかなと思います。

自然ウォッチング 猿ヶ石川の野鳥 File No. 11



オオバン(クイナ科 全長:39cm)

全身が黒く、くちばしと額が白い。首を振りながら泳ぐので、一度見ればすぐに覚えられます。猿ヶ石川では毎年何羽も見られ、水面を潜って水草や虫を食べます。鳴き声はキョン、キョンという甲高い声。類似種のバンは、くちばしと額が赤いので、判別できます。(写真提供:とうわ野鳥の会)

猿ヶ石川流域インフォメーション

4/11

生きものいっぱいの田んぼ体験 田んぼのがっこう(種まき編)

無化学肥料、無農薬栽培で、生きものをいっぱいに増やすこととお米をつくる。そんな山間の棚田にて、お米づくりを体験してみませんか。この田んぼでは、ちょっと昔の手作業の道具を使って、できるだけ化石燃料に頼らず、自然に優しいお米づくりを心がけます。春から秋まで、年5回の開催予定です。ぜひ、子ども連れでご参加下さいませ。

- 【日時】 平成 27 年 4 月 11 日(土) 9 時～ 15 時
- 【場所】 田んぼのがっこう体験田(遠野市附馬牛町)
- 【参加費】 100 円(保険料として)
- 【持ち物】 作業できる服装、長靴、昼食、飲み物、着替え
- 【内容】 保温折衷苗代づくりと稲の種まき
* これ以降、6 月 6 日(土)田植え編。8 月 15 日(土)生き物観察編。10 月 10 日(土)稲刈り編。11 月 7 日(土)脱穀編を予定しています。詳細は、お問い合わせ下さい。
* 小学生以下は保護者同伴を条件とします。
* 小雨決行 / 荒天時中止
- 【申し込み】 田んぼのがっこう事務局(☎ 0198-64-2250 千葉)



田んぼにはオタマジャクシが元気に泳いでいます。

Q

川の淵に対する「瀬」とは、どんな所ですか？

川 豆 辞 典

A

「瀬」とは、川の流れが早く浅い所で、一般に川では「瀬」と「淵」が交互に現れます。更に、「瀬」には「平瀬」と「早瀬」があり、「平瀬」は川底が砂利などで埋まり、あまり波が立ちませんが、「早瀬」では川底に石が重なり流れが早く白波が立ちます。「瀬」は、水深が浅いため、日光が川底まで届くことで藻類が多く生育し、その藻を食べる水生昆虫も集まるので、魚の貴重な餌場となります。また、多くの魚にとっては産卵場所にもなっています。

4/26 (予定)

ゴミを拾って川柳を詠もう！ 第3回田瀬湖一斉清掃 & ごみ川柳大会

田瀬湖にたどりついた大量のゴミを、できれば楽しみながら拾えないかと企画したのが「ごみ川柳大会」です。ゴミ拾いしながら湧いて来た想いを川柳に詠んでください。川柳入賞者には、協賛団体からの賞品が授与されます。また、終了後には美味しい豚汁も振る舞われます。午後は、自由参加での田瀬湖でのボート&カヌー体験会もあります。どうぞ、お気軽にご参加下さいませ。

- 【日時】 平成 27 年 4 月 26 日(日)午前 9 時～ 12 時 30 分(予定)
- 【集合】 東和 B&G 海洋センター
- 【持ち物】 清掃活動ができる服装と履物、雨具
- 【内容】(予定)
開会行事 / 田瀬湖一斉清掃 / 水辺の安全教室 / ごみ川柳大会 / 表彰式 / 豚汁振る舞い / ボート&カヌー体験会(希望者)
* 午後は希望者のみボート&カヌー体験会があります。参加したい方は、おにぎりなどの昼食を持参下さい。
* 小学生以下は保護者同伴を条件とします。
* 小雨決行 / 荒天時中止
- 【問合せ】 同実行委員会(☎ & FAX 0198-64-2250 千葉)



子供達の参加也大歓迎です。

猿ヶ石川再生プロジェクト

猿ヶ石川調査員募集！

雪解けを待って、この春から、田瀬ダム上流部(遠野市側)における猿ヶ石川の継続調査を始めたいと考えています。そこで、この調査に参加いただける方を募集します。

具体的な活動としては、4 月に調査地選定の打合せを行った後、春と秋の 2 回に数カ所で調査を行う予定です。猿ヶ石川の自然環境に関心がある方。あるいは、釣り愛好家の方など、川の中に入って歩ける方なら、特別な資格などありません。お気軽にお問い合わせ下さいませ。なお、調査道具などは、プロジェクトで準備します。

【申込・問合せ】 プロジェクト事務局(☎ 0198-64-2250 千葉)

田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会通信 Vol.11

「猿ヶ石川通信」平成 27 年 2 月号

発行日：平成 27 年 2 月 26 日

発行：田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会

☎ 028-0123 花巻市東和町田瀬 39-1-3

☎ 0198-44-5211

編集：一般社団法人いわて流域ネットワーク

問合せ：☎ & FAX 0198-64-2250 (千葉)

E-mail:pahaya@tonotv.com

田瀬ダム完成 60 周年記念プロジェクトの冬期イベントとして計画していた「田瀬湖水上ワカサギ釣り大会」は、氷の厚さが足りないため、残念ながら中止となりました。

ということ、春から行って来た 60 周年記念事業の一切が終了しました。各行事に多面から、実に多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。感謝申し上げます。

この事業を通じて生まれ縁を大切に、今後の田瀬湖を中心とした猿ヶ石川流域の活性化にどのように結びつけるかが、今後の大きな課題です。(千葉)

編集後記